

日本 职业配音演员 古贺胜行
专业影视演员 森田结美子

领衔朗读



听读 日本語



赵平 高鹏飞 主编

- 一期一会
- 南明河
- A市の大見屋
- 銀の簪
- 奇縁
- 帰郷

中国科学技术大学出版社

淮海工学院·中国国际人才开发中心

连云港朝日·北京岳川电源设备有限公司

资助编写

听读 日本語

赵平 高鹏飞 主编

中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

听读日本语/赵平,高鹏飞主编. —合肥:中国科学技术大学出版社, 2009.5

ISBN 978-7-312-02422-1

I. 听… II. ①赵…②高… III. ①日语—听说教学—自学参考资料
②日语—阅读教学—自学参考资料 IV. H31

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 199261 号

出版发行	中国科学技术大学出版社 安徽省合肥市金寨路 96 号(230026) http://press.ustc.edu.cn
印 刷	安徽江淮印务有限责任公司
经 销	全国新华书店
开 本	880 mm×1230 mm 1/32
印 张	7.25
字 数	240 千
版 次	2009 年 5 月第 1 版
印 次	2009 年 5 月第 1 次印刷
定 价	18.00 元(含 MP3 光盘 1 张)

序

(日)福岡国際大学 海村惟一

2008年8月1日。貴陽。

それが私にとって思いも寄らなかった時間と空間でした。

その日は貴陽では珍しく晴れ渡り、そこは貴陽民族学院ゲストハウス、そこで、私は一人の奇人と奇遇しました。ああ、そう言えば、その出会いは必然かもしれませんね。実はその奇人こそ、本書『聴読日本語』の著者趙平博士です。

今回、貴陽民族学院と大連民族学院が主催の「日本企業文化と跨文化交流」国際学術研討会で、趙平博士の非常なる日本語教育への情熱が私を感動させました。

実は、趙平博士は日本語教育への情熱、文字に命をかけた執着を以って、悪魔である末期癌と戦っている末期癌患者です。ただし、趙平博士が自白しなければ、我々は絶対に彼が末期癌患者であると感じることができないと思います。趙平博士が考えているのは、これからどのくらい生きられるのかではなく、今という日の一分一秒を惜しんで、今までにない日本語教科書を作るために筆を走らせること、日本語の高級人材を世に送るために後進の日本語教員を育てることに奔走している日々です。趙平博士の教育・学生・文字のために命を度外視する根性と精神が、恐らく今の世の中に彼しかないじゃないかと私は秘かに思っております。これが彼を奇人と稱す故です。

趙平博士の「会話」教科書については、私が尊敬する蔵中進先生はその「序」の中にすでに的中に高く評価しました。本書を「聴読」と名づけて、日本語授業の参考書とするものと聞いています。それにしても、質の良い参考書で、就中、著者の体験に基づき、時代の特徴をそのまま語るのは頗る価値があると思います。

本書は「一期一会」「南明河」「A市の大見屋」「銀の簪」「奇縁」「帰郷」など6編を編んだものです。趙平博士のこれら文字には生きている日本語と

品の高い日本語とがバランスよく、二胡の調べのように優雅な響きが本書の中に流れていることが本書の見所ですね。

読者より早く読ませて頂く幸運な私の脳裏に浮かんだのは明治時代の東海散士の『佳人之奇遇』という有名な政治小説です。東海散士が奇遇したのは「西欧の民主」である佳人ですが、私が奇遇しているのは「中国の文人」である奇人です。そしてその奇遇に加え、趙平博士からいきなり私に『聴読日本語』の「序」を書いてくれと言われた時には、これが本当の空前絶後なる奇縁だと吃驚しました。

本書を手にした学生の諸君達は本当に幸せと言っても過言ではありません。著書は著者の如く、読めば読むほど著者の人間像が浮かんできます。私が言う「奇人」とは何か、必ず悟れると同時に諸君達も成長を遂げると確信しながら、これを「序」とします。

2008年9月23日(秋分の日)

日本福岡博多湾聴濤閣にて

* * * * *

2008年8月1日, 贵阳。

对我来说, 那是个未曾料想到的时空。

那一天, 贵阳的天空格外晴朗。在贵阳民族学院宾馆, 我巧遇到一位奇人。不过, 或许应该说, 我和他的相识是一种必然。这位奇人, 就是本书《听读日本語》的作者赵平博士。

在贵阳民族学院和大连民族学院主办的“日本企业文化和跨文化交流国际学术研讨会”上, 赵平博士对日语教育炽热的激情令我感动。

其实, 赵平博士是一个以对日语教育的热情和对文字献身的执著, 在与病魔——晚期癌症进行着战斗的患者。只是, 如果不是亲耳听到他的坦诚相告, 我们是绝对不会感觉到他是一位患着晚期癌症的人。他现在考虑的不是怎样面对今后的生活, 而是珍惜分分秒秒, 正在为创作出全新的日语教材、为培育中青年教师、为给社会培养优秀的日语人才而忙碌着。我心中暗想, 像赵平博士这样为了教育、为了学生、为了文字而把生死置之度外的坚韧和精神, 在当今之世恐怕找不出第二人吧。所以, 我才称他为奇人。

关于赵平博士的系列《会话》教材, 令我尊敬的藏中进先生在他的序言

中已经给出了很高的评价。本书以《听读》为名,据说是作为辅助日语教学的参考书出版。这样说来,那便是一本高质量的参考书了。尤其是作者以亲身经历为题材,其鲜明的时代气息,具有很高的价值。

本书由《一生一度缘》、《南明河》、《A市的大见屋》、《银簪》、《奇缘》、《归乡》等6个日文短篇组成。赵平博士的这些文字,表现生动,格调高雅,毫无生涩之感,好似二胡那低沉圆润的优雅旋律在书中回响,这是本书的精彩之处。

比起普通的读者,我有幸先睹为快。在我的脑海里浮现出了日本明治时期著名的政治小说、东海散士的《佳人之奇遇》。东海散士奇遇到的是“西方民主”这位佳人,而我奇遇到的是“中国文人”这位奇人。加之在这个奇遇之际,赵平博士突然让我为《听读日本语》作序,那时真是吃惊不小——世间真有这样的奇缘啊!

可以毫不夸张地说,能够读到这本书的学生是非常幸运的。文如其人。随着阅读的不断深入,作者的面目就会凸现出来。我相信诸君一定能理解我称之“奇人”的言后之意,与之同时,各位也将得到了长足的进步。

谨以此为序。

(高鹏飞 译)

目 次

序	I
一期一会	1
一期一会——出会いはリレーのバトンのように——	17
南明河	21
日本からの雙眼鏡——南明河——	33
A 市の大見屋	37
「A 市の大見屋」を読んで	66
銀の簪	73
日本からの雙眼鏡——母の強さと優しさと——	93
奇縁	97
「奇縁」の行間に読む真意	116
帰郷	122
「帰郷」の修辞的特徴について	159
参考译文	
一生一度縁	165
南明河	171
A 市大見屋	176
銀簪	189
奇縁	197
归乡	203

一期一会^①

笔者:赵平

注译:小林荣三、福井耕一、刘卫红、高鹏飞、吴琴、李玲、蒋庆荣、熊玉娟、赵平

朗读:森畑结美子、古贺胜行、古贺志津江、藤田央、赵平

三年前の夏休み、私はある中学校で教師をしている知人に招かれ、^{ながの}長野県^{けん}に行った。森の中の一角にある^{やまこや}山小屋に泊まり込んで、彼の教え子たちと中国文化について語り合う機会を持ったのである。子供たちは大変熱心で、毎日夜遅くまで私の話を聞いてくれた。

いよいよ子供たちと語り合う最後の日となり、お別れパーティーで、羊の肉のバーベキューをすることになった。私は知人のぼろバイクを借りて、マトンを買いに行った。

田舎の町でマトンを売っている店を探すのは^{ひとくろう}一苦労^②だった。やっとのことで^③手に入れ、^{きろ}帰路^④についたころには、すっかり日が落ちて、あた

① 「一期一会」 茶道用語。千利休弟子宗二(1544-1590)《山上宗二记》:「一期に一度の会」。(一生一次的缘份)◇一期一会の出会と思い、大切にもてなす。/想到这是难得的相逢,所以要好好款待。

② 「一苦労」 ちょっとした苦労、努力。(费了点力气,费一番辛苦)◇彼は意地っ張りだから、説得も一苦労だ。/他人很倔,劝他要费点儿劲。

③ 「やっとのことで」 やっと、どうにか、漸く。未達成の動作、事項、目的が完全ではないが、実現に近くなること。(费了好大力气,好容易才……)◇大量の宿題を、やっとのことで片づけた。/好不容易才把这么多的作业搞定。

④ 「帰路につく」 家に帰るために今いるところを出る。家へ帰っていく。(踏上归途)◇残業で、10時をまわってようやく帰路についた。/因为加班,过了10点才踏上回家的路。

りは暗くなっていた。私は遅くなったことに焦りを覚え⑤、アクセルをいっぱいにかした⑥。しかしバイクは、爆音をひととき大きく響かせながら、年老いた牛のように相変わらずのろのろと走った。いつの間にか、私は黒松の森に挟まれたでこぼこの砂利道に迷い込んでいた。

前方に交差点が見えてきた。どうも広い道があるようだ⑦。前方を確かめるため、アクセルをゆるめ一時停止した。そして、発進しようとした⑧のだが、こんなときに限って⑨、エンスト⑩をおこしてしまった。仕方なくバイクを降りて、しつこくキックを繰り返すうち、やっとのことでエンジンがかかり、再びバイクに乗って広い道路に突っ込んだ。

道端の黒松に視線を遮られてよく見えなかったせいもあり、右の方から猛スピードで走ってくるトラックに気がついたときは、すでに遅かった。危ない！ と思って、エンジンをふかし、加速して素早く逃げようとした。が、急にはスピードが出ない。次の瞬間、ドカンという大音響とともに、自分の体が秋の枯れ葉のようにフワッと舞い上がったように感じた。

- ⑤ 「焦りを覚える」 焦りを感じる。焦り出したようである。(感到焦急)◇友人は次々と結婚が決まり、ひとりだけ取り残されて焦りを覚える。/朋友一个接一个地把婚事定了,只有自己落单,急死人了。
- ⑥ 「アクセルをふかす」 車のアクセルを強く踏む。(踩油门)◇交差点で止まっていると、後ろの車が急がすようにアクセルをふかした。/在十字路口一停下,后面的车子就轰油门,像催我似的。
- ⑦ 「どうも……のようだ」 そう判断してもおかしくないと思える。(非常像……,总觉得好像……)◇彼は必死で隠しているが、どうも彼がしゃべったようだ。/虽然他拼命掩盖,但似乎就是他说出去的。
- ⑧ 「(う)ようとする」 行動する意思を表す。その行動を始める寸前の状態を表す。(要做某事)◇家を出ようとしたとき電話が鳴った。/刚要出门,电话响了。
- ⑨ 「に限って」 ……だけは。……だけは特に。(只有,唯独)◇その日に限って彼は定刻に来なかった。/唯独那天他没按时来。
- ⑩ 「エンスト」 エンジンが急に停まる状態。(“engine stop”的略语:发动机停止工作)◇免許取り立てのドライバーは、よくエンストをおこす。/刚拿驾照的司机开车常熄火。

気がつくと、道の反対側^{はんたいがわ}に飛ばされていた。全身に激痛^{げきつう}が走って、呼吸が苦しい。バイクはトラックの下に引きずり込まれ、原形をとどめず^⑩、単なる鉄のかたまりになっていた。

まもなく、ピーポー、ピーポーというサイレンの音とともに、私は病院に運ばれて、レントゲンを撮られた。右半身の肋骨から膝、足首、足の指まで、何カ所も複雑骨折しており、頭の右側も腫れ上がっていた。警察の人の話では、あれだけの衝突で命^{いのちびろ}拾い^いしたのがむしろ奇跡だったらしい。

私は入院生活を余儀なくされた。初めの一週間は、骨折した箇所がばんばんに腫れ上がり、体は言うことを聞かず^⑪、言葉では言い表せないほどの痛みに、ただただ耐える苦しい毎日だった。

九死に一生の事故に遭い、その激痛と戦いながら、天井をじっと眺めて我慢するのが私の日課^{につか}となった。そんなある日、看護婦さんがやってきて私に言った。

「お友達が見えていますよ」

看護婦さんの後ろに、目を細めて微笑^{ほほえ}んでいる藤田^{ふじた}先生の顔が見えた。

藤田先生を知ったのは、阪神大震災のあとである。それは、震災のボランティア活動を通じて知り合った、芦屋^{あしや}の青木さんという女性の家で、彼女に英語を教えていたときのことである。私は彼女と冗談をとばし合い^⑫ながら大きな声で笑っていた。すると、たまたま青木さんのお母さん^{しんきゅう}に鍼灸^{ほどこ}の治療を施^ほしに来ていた男性に、ドアを叩かれて、「お年寄りを治療しているところだから、大きな声を出さないで」と注意されたのであ

⑩ 「原形をとどめない」完全に元の形ではなくなる。(未留下原形)◇破壊され尽くして、もはや原形をとどめていない。/完全被破坏,已经不成样子了。

⑪ 「言うことを聞かず」身体や機械がうまく動かない。命令どおりにしない。(不听从使唤)◇寒さで手がかじかんで指先が言うことを聞かず、何度も失敗した。/手冻僵了,手指也不听从使唤,失败了好几次。

⑫ 「冗談を飛ばす」冗談を言う。(开玩笑)◇あの先生は授業中、いつも冗談を飛ばしている。/那位老师上课时,总开玩笑。

る。「あら^⑭、藤田先生が怒っている」と青木さんは舌を出し、首をすくめた^⑮。

これが私と藤田先生との「出会い」ともいえようか。その後、青木さんのお宅で、治療を施している藤田先生の姿を二、三度ちらっと目にした^⑯ことがあった。だが向こうは私のことに気がついていない様子もなかったし^⑰、勿論、言葉^{もろこ}を交わした^かことは一度もなかったのである。

「先生、どうして……お久し……ぶりです」

「大変なことになったね」と言いながら、藤田先生はリュックからいくつか小さな紙袋を出して、悪戯^{いたづら}っぽい^⑱表情で私に言った。

「これ、僕が調合した漢方薬^{かんぼうやく}だ。看護婦に内緒^{ないしょ}^㉑で飲んでみな^㉒」
「どんな薬ですか」

- ⑭ 「あら」軽い驚きや不審を示す。女性語。(感叹词,表示惊讶,女性多用)◇「あら、こんな所でお会いするなんて」/哎呀!没想到能在这儿见到你!
- ⑮ 「首をすくめる」軽く驚いたり、困ったり、ちょっとおどけたときの仕草。(缩了缩脖子)◇突然雷鳴がとどろいて、思わず首をすくめた。/忽然一声炸雷,我不由得缩了下脖子。
- ⑯ 「目にする」(偶然)見かける。[(偶然)看见]◇彼女がたばこを吸うのを何度か目にすることがある。/有好几次看到她抽烟。
- ⑰ 「し」事実や条件を更に付け加えて列举する。前の文が後の文の理由となっていることを表す。(因为……所以……)◇お腹もすいたし、のども渴いたし、あそこの喫茶店で休もう。/饥肠辘辘,口干舌燥的,到那个茶馆休息一下吧。
- ⑱ 「言葉^{もろこ}を交わす」(初めて)会話する。(交谈)◇学会は、有名な先生と言葉を交わすまたとないチャンスだ。/参加学会可以获得和名家交谈的难得机会。
- ㉑ 「つばい」……のように感じる。……のように見える。……の傾向が強い。状態、傾向、仕草、行動を表す。(表示具有某种倾向或感觉)◇彼女は時々子供つばいことをする。/她有时会做孩子气的事情。
- ㉒ 「……に内緒」その人に秘密にする。他人にある事を隠す。(对……保密)◇このことはお母さんには内緒だよ。/这事不许跟妈妈说呀。◇東大を受験するのを友人には内緒にしていた。/我没把报考东大的事情告诉朋友。
- ㉓ 「動詞連用形+な」命令を表す。しろ。(表示命令或劝诱)(……吧)◇早く服を着な。/快穿吧。

「血の循環をよくする薬だよ。わりと評判が良くって㉔……それと、こんな薬も薬局から買ってきた」

藤田先生はリュックから大きなガラス瓶を取り出した。中に、カルシウムを^{おぎな}補う錠剤がいっぱい詰まっていた。

「先生はなぜここに？」

藤田先生は、私の不思議がっ㉕ている様子を見て、片目をつむって悪戯^{いたずら}っぽく笑った。

「僕は地獄耳^{じごくみみ}㉖なんだよ」

どうも藤田先生は、私が交通事故に遭ったことを、青木さんが電話で誰かに話しているのを立ち聞きして知ったらしい。そして彼は、西宮市にある小さな診療所を休み、車で長野県までやってきてくれたのだった。聞くと、昨日の真夜中に病院に^{たど}辿り着き、車の中で一夜を明かしたとのこと㉗。先生はホテルに泊まるのが嫌いで、車の中で寝るのが好きなんだそう。

「わざわざありがとうございます……」

「おいおい、わざわざ来たわけではない㉘よ。このあたりの山々を前か

- ㉔ 「……って」「ということ」の圧縮表現。（「……ということだ」的变化形式，表示从别处听来。听说）◇最近調子が悪くって、食欲がないんだ。/据说最近身体不舒服，所以食欲不振。
- ㉕ 「がる」形容詞、形容動詞、名詞に付いて、そのようにする。そのような振りをする。（欲しがる、読みたがる、恥ずかしがる、さびしがる等）。（觉得，感觉）◇そんな顔を見ると、子供が怖がるじゃないか。/做出那副样子，小孩子会害怕的。
- ㉖ 「地獄耳」人の秘密、弱点、悪事などを早くから聞き知っていること。（比喻耳朵尖）◇彼は地獄耳だね、どんな噂話も知ってるよ。/他真是顺风耳！什么小道消息都知道。
- ㉗ 「とのこと」＝「ということ」◇先生から連絡があって、来週の講義は休講とのことです。/老师联系说，下周的课暂停。
- ㉘ 「……わけではない」特に……ではない。必ずしも……ではない。「別に、特に」などと一緒に使われることが多い。（部分否定。并不是，并非）◇別に言葉が分かるわけではないが、外国の歌を聞くのが好きだ。/虽然听不懂歌词，但喜欢听外国歌。

ら見たかったので、ついでに来たのさ⑦」

「これからまたどこかへ行かれますか」

「一升瓶^{いっしょうびん}をぶら下げて、周りの畦道^{あぜみち}をぶらぶらするつもりだ。それも結構^{ふうりゅう}なもんだ。そうだ、旧友を訪ねても良いな。ところで君、いつ神戸に帰るつもり？」

「いつって……？」

私は言葉に詰まった⑧。本当は一刻も早く帰りたかった。家の近くで治療すれば、気分的にゆっくりできる。それに、妻は出産したばかりだった。しかし、こちらの知人は車の免許を持っていない。タクシーで神戸まで帰る手もある⑨が、私には負担できない金額である。私と知人は、どうやって神戸に帰るか、頭を抱えていた⑩ところだった。

「君はついている⑪。ついでだから僕の愛車^{あいしや}に乗っていかないか？ 退院の手続きをしてあげるから、一緒にドライブしながら帰ろうじゃないか⑫」

⑦ 「さ」(終助詞)相手に強く伝える気持ちを表す。また、相手がそんなに難しく考える必要はないという気持ちを表す。(在此表示增添轻微断定的语气)◇誰って、君のことさ。/你说会是谁呢？就是你！

⑧ 「言葉に詰まる」(困って)言葉が出て来ないさま。(语塞)◇全く気づいていなかった矛盾を指摘されて、壇上で言葉に詰まってしまった。/当被指出自己从未注意到的矛盾时，我在台上顿时说不出话来。

⑨ 「……手がある」そういう方法・やり方がある。手は「技、計略、腕前など」を表す。(有……方法)◇その手があつたか！/原来还有那个办法！

⑩ 「頭を抱える」良い考えが浮かばず困り果てたさま。(为某事烦恼而)抱頭◇人は足りない、金はない、八方ふさがりで頭を抱えている。/人手也不够，钱也没有，四处碰壁，真叫人头疼。

⑪ 「(君は)ついている」運が良い。(走运，幸运)◇「今日は全くついてないよ」「いや、先生にフォローしていただいて、ついてるじゃないか」。「今天真不走运。」“什么呀，老师为你打了圆场，很走运嘛！”

⑫ 「……じゃないか」ではないかの転。この場合は一緒にしようと誘うこと。(这里表委婉的劝诱)◇今夜は心ゆくまで語り合おうじゃないか。/今晚我们尽情地谈吧！

藤田先生はそう提案してくれた。

翌日の朝早く出発しよう、ということで話がまとまった。藤田先生は私の枕元に封筒を置き、「少ないが、お見舞いだから使って」と言い残して出ていった。

封筒を開けて見ると、福沢諭吉^{ふくざわ ゆきち}③が5枚も入っていた。

翌日の朝5時に藤田先生はやってきて、看護婦と組んで、私の寝ているベッドを玄関まで押していき、私を抱き上げて、車の後部座席に寝かせてくれた。後部座席は改造されていたようで、私が横になっても十分な広さだった。

知人も駆けつけてくれ、「絶対、事故を起こさないように、気をつけて運転して帰って下さい」と、念を押し^④ながら、何度も藤田先生に頭を下げた。

「大丈夫ですよ。ご心配なさないで下さい。私は、他人の車に乗っていて二度ほど事故に遭ったことはありますが、自分の運転で事故を起こしたことはありません。この車とは信頼関係ができていますからね」と藤田先生は言いながら、ブルンとエンジンをかけた。なぜかそのとき、「二度あることは三度ある」^⑤という諺が私の脳裏^{のうり}を横切った。

長野県から神戸まで、車だと結構長い道のりだった。車はスムーズに高速道路を走ったが、小刻みな振動^{こきざ}に私の体は痛みを感じ続けた。「早く神

③ 「福沢諭吉」明治時代の啓蒙思想家。現在、肖像画が1万円のデザインになっている。（因1万日元上印有其头像，「福沢諭吉」在此表示1万日元的意思。）

④ 「念を押す」念は気持（不安）、希望。間違いのないよう繰り返し確認する。（叮嘱）◇彼はおしゃべりだから、口外しないように念を押した方がいい。/他很多嘴，还是叮嘱一下不要说出去的好。

⑤ 「二度あることは三度ある」二度、起きたことは又、起きる可能性があることを強調して言う。物事は繰り返して起こることがあるので、注意しろということ。（凡事有二就有三）。◇二度あることは三度あるというから、同じ場所で転ばないように気をつけろよ。/俗话说，凡事有二就有三，要当心不要再在同样的地方跌倒！

戸に着かないかな」と思いつつ^㉕、歯を食いしばって我慢していたが、昼近くに、それも限界となり、思わず藤田先生に声をかけた。

「先生、もっと速く走れませんか。早く病院に着きたいので」

それから私は何度となく繰り返しせが^㉖んだ。藤田先生は私の懇願^{こんがん}に負けて、アクセルを踏み込んだようで、エンジンの音が大きくなった。不思議なことに、車が速く走ると、振動はかえって少なくなり、私はいくらか楽になった。

そのときだった。急ブレーキを踏む音が、けたたましく耳に響き、車は右横にスリップした。中央分離帯のセメントのブロックにガンとぶつかって、今度は、左横に滑^{すべ}って、前の車に追突^{ついどつ}して止まった。

後で分かったことだが、三台前の車が事故で横転^{おうてん}し、そこへ私たちの車がスリップして突っ込んでしまったのだ。幸いにも藤田先生が腕にかすり傷を負っただけで、他の車にけが人はなかった。

「大丈夫か、けがは？」

藤田先生は、真っ青になっていた。

私は、毛布にくるまっていたお陰で、衝撃による^㉗痛みはあったものの^㉘、これ以上の怪我はしないで済んだ^㉙。しかし、藤田先生を急かせて、

㉕ 「動詞連用形+つつ」動作の反復、継続を示す。……しながら。同じ動作が繰り返されるさま。(表示两个动作同时进行)◇落とし物を捜しつつ、ついでにその辺りを散策した。/一边寻找失物一边顺带散心。

㉖ 「せがむ」ねだる。無理に頼む。要求する。(央求)◇いくらせがんでも、父はどこにも連れて行ってくれない。/不管怎么央求，爸爸哪儿都不带我去。

㉗ 「体言+による」……に因る。原因、理由、根拠を表す。(此处表示原因、理由)◇寒波による大雪。/寒潮带来的大雪。

㉘ 「動詞連体形+ものの」であるが。けれども。しかし、前後の対立、矛盾関係を示す。(前后两项为逆转关系;虽然……但是……)◇ほこりだらけになっていたものの、ほとんど無傷で残っていた。/虽然落满了尘土，但基本上没受损伤。

㉙ ……の原因・理由で、何かしなくてもいい、そうならない、何かしないでも許される。(……就行了，……就可以了)◇兄が学校で使った教科書があったので、新しいのを買わずに済んだ。/因为有哥哥在学校里用过的书，所以我不买新的也行。

とんでもない事故に遭わせてしまったことを、悔やまないではいられなかった^⑩。

警察がすぐに駆けつけてきて、私たちも事情^{ちようしゆ}聴取を受けた。私たちの車は、損傷がひどかったものの、足回りは走るのにさしつかえない状態だったので、まもなく再び走り出すことができた。

「すまん^⑪ね。ついうっかりして。やっぱり自信^{かじよう}過剰はいけないな、いくら運転名人の僕でも。車のことは気にしないで。君は知らないだろうが、僕は車修理の名人なんだよ」

藤田先生は運転しながら、私の気持ちを思い遣って慰めてくれた。

その日の夕方、やっと目的の病院に^{たど}辿り着いた。どうやって謝ったらいいのか、またどうやって感謝すればいいのか、私がまごまごしているうちに、藤田先生はさっさと帰ってしまった。

それからは、また再び長い入院生活になった。毎週、藤田先生が送ってきてくれる漢方薬を持って妻が来てくれた。その薬を飲んだお陰だろうか、足の腫れは医者の予想より早く引き、胸の痛みもいつの間にかとれていった。いよいよギブスを^{はず}外すという日、藤田先生が病室に現れた。「先生の車は?」と私が尋ねると、「なあに、前から捨てるつもりだったから^{はいしや}廃車にした」と藤田先生はさりげなく答え、「ギブスが取れたね。内緒^{はり}で鍼でもしてあげようか」と、鍼を取り出し、私の骨折した足のツボを消毒してから、^{うむ}有無を言わせず^⑫にぶすぶすと刺した。看護婦さんが来ると、藤田

⑩ 「ないではいられない」どうしても我慢できず、自然にそうになってしまう気持ちを表す。急いで行動に移りたい気持ちを表す(状況が差し迫っている)。(不得不……, 不能不……)◇心配で、口を出さないではいられない。/很担心, 无法不说出来。

⑪ 「すまん」すまない。感謝、謝罪の気持ちを表す男性語。また、ちょっとしたことを依頼するとき言う。(「すみません」的口语形式)◇すまんが、手伝ってくれ。/麻烦你, 帮个忙!

⑫ 「有無を言わせず」何も言わせないで。無理やりに。相手が承知でも不承知でも関わりなく。(不由分说)◇どうしても話をしたくて、有無を言わせず連れ出した。/有话非要说不行, 所以, 不由分说就拽出去了。

先生は悪戯^{いたずら}をした子供のように、慌^{あわ}てて治療道具を隠して、何事^{なにごと}もなかったかのように、私と天気の話や中華料理の話をし始めた。

回復は順調だった。リハビリを重ねた甲斐^{かい}もあり、松葉杖^{まつばつづえ}で歩いたり、病院のリハビリ用の自転車に乗ったりもできるようになった。やっぱり若いから回復も速いのだと、私はリハビリの先生に自慢した。しかし、リハビリの先生が私の健康診断をしたところ^④、心肺の機能が50代並^{なみ}^⑤とかで、ちょっとがっかりした。

「心臓は弱いけど肝臓は強いですよ」と、私は自分の落胆^{らくたん}ぶり^⑥を悟^{さと}られぬ^⑦ように冗談で紛^{まぎ}らわした。

私がギブスを外してから、藤田先生は決まって週に一度、西宮市から電車で病院を訪れ、漢方薬と私の大好物である果物を持って見舞ってくれた。それに、看護婦さんの目を盗んでは、鍼^{きゅう}やお灸で治療もしてくれたのである。

私は藤田先生の好意に次第^{とまど}に戸惑^{とまど}いを感じるようになった。会釈^{えしやく}を交わす程度の仲だったのに、なぜ自分の仕事を休んで、電車賃や薬代など

④ 「動詞過去式＋たところ」……たら。何かをしたら、その結果がどうなったかを表す。(表示后述事项是前项的结果)◇先生に仲介をお願いしたところ、快く引き受けてくださった。/请老师给说和说和,老师欣然同意了。

⑤ 「体言＋並」それと同じ水準、程度である。(表示大体相同的程度)◇母の体力は男性並だ。/母亲的体力不亚于男人。

⑥ 「ぶり」振り。その形や様子を表す。(様子,姿态,外形)◇彼の話しぶりは、いかにも楽しげだった。/他好像讲得很高兴。

⑦ 「ぬ」ない。この場合は否定の助動詞。(表示否定)◇知らぬ存ぜぬ存ぜぬの一点張りだ。/硬说完全不知道。